

海南省の概況

もくじ

(1) 基本データ.....	1
(2) 経済概況.....	3
(3) その他情報.....	6
(4) 海南省指導者の略歴.....	9

(1) 基本データ

◆海南省について



省都	海口市
面積	35,113 km ²
人口	1,027 万人
地級行政区	19 (地方級都市 4、県級都市 5、県 4、民族自治区 6)
書記	馮飛 (Feng Fei) ※略歴は後述
省長	劉小明 (Liu Xiaoming) ※略歴は後述

データは 2022 年末現在 出典：海南統計年鑑 2023、同省政府ホームページなど

<気候>

熱帯性モンスーン気候に位置する海南省は、年間を通して平均気温は約 24 度とほとんど変わらない。夏は 27-28 度程度まで暑くなるが、冬も 20 度前後で暖かく、平均降水量は 2200 ミリ。大規模なビーチとリゾート施設があり、中国各地が真冬を迎える時期でも観光できることから、「中国のハワイ」とも呼ばれる。

<地理>

海南省は北緯 18 度に位置し、メキシコやハワイと同じ緯度にある。中国の最南端の省で、海南島と西沙諸島などの島しょ部とその周辺海域からなる。全省の陸地総面積は、約 3 万 5000 平方キロメートル。このうち海南島は約 3.4 万平方キロメートルで、日本の九州とほぼ同じ大きさ。

<歴史>

海南省は、玉や玉のように美しいという意味の漢字である「瓊(けい)」と略称される。海南島をはじめ周辺の島々には、古代から漁民などが暮らしたとされる。新中国成立直後の 1950 年 5 月 1 日に海南行政区が成立し、広東省に属することになった。1988 年 4 月 13 日には海南省の成立が宣言され、中国最大の経済特区にもなった。

省都は、海口市。ヤシの都市という意味の「椰城」とも呼ばれる。

<文化>

「黎苗文化」

海南黎(リー)族の祖先は、五千年前に、大陸から移住した百越人と呼ばれる少数民族。最も早い海南島の原住民で、島独自の民族と言われる。

苗(ミャオ)族は 400 年前に、広東と広西から島に渡った苗族駐在軍隊から多世代にわたり居住してきた民族。これらの少数民族文化が融合して現在の「黎苗文化」となった。入れ墨などの風習も未だに残っている。

黎族の織物である「黎錦」は、中国の非物質文化遺産(無形文化遺産)で、竹竿ダンス、竹筒飯、山蘭酒なども重要民族文化になっている。黎族と苗族の伝統祭日である「三月三」は、毎年旧暦 3 月 3 日に行われる春の祭典で、歌やダンスが繰り広げられる。旧暦の 7 月 7 日には、七仙温泉嬉水節(水掛け祭)が行われる。

<行政区>

海南省には 19 の地級行政区がある。2012 年 6 月 21 日、三沙市を設立。人口が最も多いのは省都の海口市で 221 万人、続いて工業都市である儋州(たんしゅう)市の 108 万人、ボアオサミットの開催地でリゾート地として知られる三亜市の 73 万人と続く。三沙市は 933 人。

(2) 経済概況

2022 年、海南省の域内総生産（GRP）は 6,818 億元（前年比+0.2%）、一人当たり平均の GDP は、66,602 元である。第 1～3 次産業の中では観光を中心とした第 3 次産業が 6 割を占めている。

項目	海南省 ※カッコ内は前年比
域内総生産 (GRP)	6,818 億元 (+0.2%) うち第 1 次産業：1,418 億元 (+3.1%) 第 2 次産業：1,311 億元 (-1.3%) 第 3 次産業：4,089 億元 (-0.2%)
1 人当たり GDP	66,602 元 (-0.5%)
平均可処分所得	30,957 元 (+1.6%) 都市住民：40,118 元 (-0.2%) 農村住民：19,117 元 (+5.8%)
実質外資利用額	37 億 716 万ドル (+5.3%)
輸出入総額	2,010 億元 (+36.8%) 輸出総額：723 億元 (+120.7%) 輸入総額：1,287 億元 (+12.8%)
貨物取扱量	3 億 40 トンキロ ¹ (+7.1%)
旅客輸送量	8,024 人キロ (-28.3%)
観光客	国内 5,988.8 万人 (-25.9%)
	海外 15.2 万人 (-22.8%)

◆交通インフラ

鉄道：2007 年に開通した海南島西海岸を半周する海南島西環状線は、大陸本土から海を船で渡って、長距離列車が直接乗り入れている。広州、上海、北京などから接続している。海口⇔三亜（片道）は所要時間が約 3 時間 40 分。2010 年には海南島の東沿岸部を半周する海南島東環高速列車が開通し、海口と三亜の移動時間が大幅に短縮したほか、ボアオや石梅湾、興隆などへのアクセスも格段に

¹ 物流用語。トンキロとは、貨物の輸送量を表す単位のこと、貨物の重量（トン数）にそれぞれの貨物の輸送距離（キロメートル）を乗じて算出する。

向上した。海口⇔三亜（片道）は所要時間が約 2 時間。

道路：省内の道路総延長距離は約 4.1 万キロ。

高速道路は、1995 年に建設を開始し、2025 年の完成を見込む。海南島を周回する 98 号線と、各都市を接続する連絡線で構成する。周回部分の 1100 キロ以上が開通。

空港：省内には国際飛行場は 3 か所。

三亜美蘭国際飛行場、三亜鳳凰国際飛行場、琼海博鳌国際飛行場。

国内旅客 421 路線、国際旅客 103 路線、国際貨物 13 路線がある。2025 年には民間航空路線は 210 都市、うち海外 80 都市を計画している。

◆外資企業の進出状況

2022 年に新たに設立した外資企業は 1352 社（前年比 30%減）。過去 4 年間の外資実際実行額は、海南省の設立から過去 30 年の総額に匹敵する。2021 年 6 月に施行された「海南自由貿易港法」により、中国で唯一の自由貿易港政策が始まっている。

◆日系企業の進出状況

物流関連では日本通運、メーカーとしてはパナソニック、トヨタ自動車、日立製作所、飲料メーカーのキリン、ヤクルトなどが進出している（海南国際経済発展局投資促進一部・高潔次長の発表による）。

◆海南自由貿易港（後述する、日本で実施した説明会から抜粋）

海南自由貿易港（海南自貿港）は、習近平国家主席自らが進める重要な国家戦略で、3 段階に分けて建設を計画する。1）2025 年までに貿易と投資の自由化を実現、2）2035 年にはクロスボーダー資金の流動、人員の出入り、貨物の輸送、データの安全な流動などを実現、3）2050 年には現在の香港、シンガポールと同様、高い影響力のある自由貿易港を建設するというもの。

海南自貿港と中国のその他の 21 自貿区との相違点は、法規的なバックアップの有無で、21 年 6 月に施行した「中華人民共和国海南自由貿易港法」を指す。香港、マカオの基本法のようなものと理解してよいとのこと、同貿易港は立法権を持つようになったという。

このことにより、グローバル投資企業に対して長期的、安定的な法律面の保障をサポートできるとしている。

特徴の一つはゼロ関税。2025年以降、現在の香港同様、ほぼ全ての貨物が関税フリーで出入りできる免税島となる。また、加工増値政策は、香港の原産地政策と似たもので、商品の加工を海南で行い、その付加価値が30%以上つけば、中国大陸への販売に際しての輸入関税が免税となるもの。加えて海外からの投資による収益は、法人税が免除となる。

中国企業に歓迎された政策としては、法人税、個人所得税の両方を15%の低税率に設定したこと。香港は16.5%、シンガポールは17%であり、海南が最低水準である。中国大陸と比べても法人税は海南の方が最大10%低く、個人所得税は最大30%低くなる。簡略税制について、現在中国では18税種が施行されているが、海南では2025年以降、増値税、車両購入税らの間接税を統廃合し、商品の小売りの段階での販売税を施行することになる。この販売税は日本の消費税に相当するもので、消費者側が負担することになる。

離島免税政策の一環として、2020年7月から1人当たり免税水準が3万元から10万元に引き上げられ、免税品目が45種類まで拡大されている。22年の1年間でトラベルリテールの売上は600億元を超え、目標としては2025年に2000億元の売上を目指す。2000億元という水準は、コロナ前の韓国のトラベルリテール市場に相当する。

越境資金の流動について、現在の海南省では上海と同様自由貿易口座システムを構築している。企業にとっては、オンショアとオフショアの為替での両替を自由に選択可能。

海南省では現在59カ国に対しノービザ政策を実施中。ノービザでの滞在期間中に直接就労ビザへの切り替えも可能。外国人労働許可についてもネガティブリスト管理を行い、例えば日本の弁護士が日本のライセンスを以て直接海南省での就業が可能としている。

物流については、この2年間はとくにインフラ建設を強化し、空港は海口市、三亜市、ボアオと3つが所在するほか、東方市では貨物メインの空港を建設中。海南発着のフライトや船は保税燃料を給油でき、物流コストも低減。安全なデータ伝送について、海南には11の重点産業園があり、うち9産業園ではVPN無しでも海外のネットに接続が可能。

4つのメイン産業（観光、サービス業、ハイテク、熱帯農業）の強化も図っている。22年は年間で8000万人の観光客を迎えた。トラベルリテール市場が成長中であり、外国の不動産会社、スワイヤーグループ、ジャーディン・マセソンなどが三亜市でトラベルリテールに関する免税ショッピングモールを建設中。サービス業については、外資企業も法人税15%という低税率なので、スワイヤーグループや元々中国の会社で海外上場した京東や華潤グルー

プなども海南に投資会社を設立し、国内の新しいプロジェクト、子会社の株式投資を行っている。現在、ほぼ全てのキャピタル会社が海南省で QFLP、QDLP のプロジェクトを行う。

デジタル経済について。中国企業が多いが、テンセント、百度、Tiktok などが海南省で越境 EC、ライブ配信するほか、投資会社を設立するなど国内子会社の株式投資を行っている。現代物流については、京東、Cainiao、日本通運などが保税倉庫やスマート物流園、グローバルサプライチェーンの構築などを積極的に推進中。

ハイテク産業については、中央企業の華能、SPIC、そしてシェル、BP などがグリーンエネルギー、発電プロジェクトを実施中。現代医療はボアオ楽城という特別サイトがあり、日米欧 FDA の認可を取得した医薬や医療機器を同時に使うことができる。ここで収集されたデータが実社会データとして、今度は CFDA の認可を申請する際の審査スピードがアップする。製造業は物流コストがかかるため、加工増値政策を活用して、原材料の中で関税がとても高い商品にフィットすると思われる。熱帯農業について。現在、独 KWS、米コルテバ・アグリサイエンスが三亜市で農業、化学品貿易会社や R&D センターを建設中。

◆ご参考 海南自由貿易港に関する詳細資料

「海南自由貿易港政策とビジネスチャンスに関する説明会」 関連資料

<https://www.jc-web.or.jp/publics/index/1062/>

(3) その他情報

1. 日本の友好都市・姉妹都市

	日本の県		締結年月日
1	兵庫県	海南省	1990年9月28日

2. 海南省の名所

五公祠

五公祠・蘇公祠・海瑞祠・伏波祠など道教の影響を受けた建築群。「海南第一楼」とも呼ばれ、本来はその中心建築物が五公祠ですが、海南島の人々はこれらの建築群を総称して五公祠と呼んでいます。明代万歴年間に建てられたものもある。

三亜ビーチ

20km のビーチが続く三亜湾には東島と西島が浮かんでおり、地元の人は「東タイマイ島」「西タイマイ島」（タイマイはウミガメの一種）と呼ぶ。リゾートホテル、高級マンション、海鮮レストランが通りに面して軒を連ねる。

亜龍湾

エメラルドグリーンの海と7.5kmも続く白くて柔らかな砂浜、ゴム園とマングローブの林が魅力的な風景が特徴で、「天下第一湾」と称されている。美しい珊瑚礁の海で、ダイビングなどのマリナクティビティが楽しめる。

南山寺

慈航普渡園、長寿谷、如意吉祥園、天下龍硯館、禅院、南山寺からなる南山文化旅遊区の中心地。特に目を引くのは、南山寺から橋で繋がった海の中に立つ高さ108mの海上観音聖像。3面で一体となっている三尊の観音聖像は、「慈悲」「知恵」「和合」を表している。

清水湾ゴルフクラブ

清水湾ゴルフクラブは米国 SCHMIDT-CURLEY が設計し、造型師のブライト氏の監督で作られた国際レベルの36ホールのゴルフ場。Aコースは海辺リンクスの趣で、三亜でシービューが最も良いコースの一つ。Bコースは丘陵地形の湖景観が素晴らしく、海、青空、ヤシ林、溪流が一体型になった美しいコース。コース長はA 7,333ヤード、B 7,032ヤード。ホール数は36（パー144）

3. 海南省の名産・料理

ココナッツ

飲み物としても、とてもポピュラー。島のいたるところで売られており、その場で穴をあけてストローを挿してくれる。丸のままのココナッツは南国気分を満喫出来る。

苦丁茶

お茶と言っても茶の樹の葉ではなく、モチノキの一種の葉。1枚の葉を“こより”のようにねじった形から“一葉茶”とも言われる。健康茶の一種。独特の苦みがあるが後味は爽やか、近年日本でも人気。

文昌鶏

「海南四大名菜」の一つ。小振りでふくよかなこの鶏は臭みが少なく、とてもジューシー。オーソドックスな食し方は「白切鶏（丸茹でぶつ切り）」タレにつけ、茹でたときに出る油で調味したご飯と共に食べると良い。日本ではシンガポール料理として有名な「ハイナンチキンライス」の原型。茹でて出された物の一部をさらに焼くこともお勧め。カリカリとした皮の食感など、茹で鶏とはまた違った美味しさ。

和楽蟹

「海南四大名菜」の一つ。万寧市和楽鎮一帯の海域で獲れる蟹。太く短い足と堅い甲羅を持つ。調理方法はいろいろあるが、「揚げる」「清蒸（蒸す）」が最も一般的。

マンゴー

「熱帯果王」（トロピカルフルーツの王）とも呼ばれる。海南島の農作物としての歴史も古く、中国内屈指の品質、生産高を誇る。「象牙」「白玉」「龍井」「青皮」など種類も豊富。5,6月が旬だが、9,10月頃に熟す秋生り品種もある。青果だけでなくドライや粉末、キャンディーといった加工品もあり、お土産にも。三亜の南田地区などが有名産地。

(4) 海南省指導者の略歴

馮飛 (Feng Fei ひょう・ひ) 書記

生年月日 : 1962年12月 (61歳)

出身地 : 江西省昌人市

最終学歴 : 工学博士

民族 : 漢族

<主な略歴>

期間	役職
1981.05-1985.09	天津大学電力・自動化工学部 電力系統と自動化専攻
1985.07	中国共産党入党
1985.09-1988.09	天津大学電力・自動化工学部 修士研究課程
1988.09-1991.11	同学部 博士研究課程
1991.11	就職
1991.11-1993.10	清華大学電機工程・応用電子技術学部電気工学課
1993.10-1994.10	国務院発展研究中心技術経済研究部助理研究員
1994.10-1995.11	同部 副研究員
1995.11-1997.10	同部 第二研究室副主任・副研究員
1997.10-1998.11	同研究室 主任(正処長級)、副研究員
1998.11-2000.07	国務院発展研究中心産業経済研究部 責任者
2000.07-2004.09	同研究部 副部長
2004.09-2014.01	同研究部 部長
2014.01-2015.10	工業・信息化部 産業政策司 司長
2015.10-2016.08	同部 副部長、党組成員
2016.08-2017.04	浙江省 副省長
2017.04-2020.11	浙江省常務委員会委員、副省長
2020.11-2020.12	海南省委副書記
2020.12-2021.01	海南省委副書記、副省長、代理省長、党組書記
2021.01-2023.03	海南省委副書記、省長、党組書記
2023.04~	現職

劉小明 (Liu Xiaoming りゅう・しょうめい) 省長

生年月日 : 1964 年 9 月 (59 歳)

出身地 : 江蘇省揚中市

最終学歴 : 工学修士

民 族 : 漢族

<主な略歴>

期間	役職
1985	東南大学土木工程学科道路工程専攻卒業、工学学士
1988	北京工業大学土木工程学科交通工程専攻、工学修士
1988-1990	北京工業大学土木工程学科助教授
1990-1992	北京工業大学土木工程学科講師
1992-1993	北京工業大学土木工程学科准教授
1993-1996	北京工業大学大学院副院長、准教授
1997	北京工業大学大学院教授、副院長
1997-2000	北京工業大学校長助理、教授、211 オフィス主任、 大学院長
2000-2003	北京工業大学副校長
2003-2008	北京市交通委員会副主任、党組成員、副主任、党組副書記
2008-2014	北京市交通委員会主任、党組書記
2014-2015	交通運輸部党組成員、運輸司長
2015-2016	交通運輸部党組成員、運輸サービス司長
2016-2021	交通運輸部副部長、党組成員
2021-2023	広西チワン族自治区党委副書記
2023 年～	現職